

シリーズ 土地改良のあしあと 服部川沿岸土地改良区(伊賀市)



真泥ダム堤防草刈作業



上野頭首工

当土地改良区は、三重県の西端伊賀盆地を東西に貫流する服部川(淀川水系)の形成した扇状形平坦地で南北4km、東西5kmの広大な地域で、西方に向って1/100～1/150の傾斜をなし、その標高はE L 135 m～155 mであります。

昭和30年4月10日に受益面積846ha、組合員数1,000余名で設立した改良区です。

設立後55年が経過するなかで、都市化の進展や農業後継者の減少にともない受益面積や組合員が減少し、現在の受益面積384ha、組合員数680余名となっております。

当地域唯一の水源である服部川の水量が極めて少ないことから、昭和45年5月に県営ダムの建設に着手し、提高26.2m、堤長180.0m、総貯水量1,296,000m³の中心コア型フィルダムが昭和50年3月に完成いたしました。また、同時にダム直下の服部川近くに揚水機場を設け、ポンプ揚水工延長709m、最大揚水量0.143m³/Sで年中満水状態を確保しております。

また、ダム周辺一帯は年中を通じて野鳥の宝庫として、広く「探鳥会」等の行事を通じ自然を活用しており、冬にはかもし類の水鳥も多く飛来し羽を休めています。これから先も

この恵まれた自然をそのまま保存し、保護していかなければなりません。近年真泥ダム、上野頭首工をはじめ各施設が老朽化して来ている中、遂次改良を進めておりますが、平成18年度から新農業水利システム保全対策事業を導入し除塵機の設置、スライドゲートの電動化等により、施設管理の省力化及びコストの軽減に努めており、平成22年度最終年度になっております。

一方、土地改良の運営や施設の維持管理は、組合員の高齢化や兼業の拡大、農産物価格の低迷から離農したり、農作業を委託するなど組合員の営農形態が変化してきており、土地改良区の将来の運営に様々な支障が生じてきています。このような状況から土地改良区の事務統合や合併によって事務の合理化と共に土地改良施設の管理を一元化して維持管理を効率化するなど、将来に亘って健全な運営が行えるような体質強化の必要性に迫られ、関係4土地改良区で統合に向けた協議が進められ、平成21年8月上野土地改良区統合整備推進協議会を設立し、三重県、伊賀市及び三重県土地改良事業団体連合会の指導と協力を得て当土地改良区が主体的な役割を課し、平成23年8月統合を目標に協議を重ねているところです。



真泥ダム



新農業水利システム保全対策事業除塵機設置 (H21年度)



新農業水利システム保全対策事業分水ゲート電動化 (H20年度)